

平成30年度決算に基づく本市の財務書類を作成しました

総務省が示す「統一的な基準」に基づく本市の財務書類

この財務書類は、市が所有する財産・債務・コストなどの状況を把握し、今後の財政運営に役立てることを目的として作成されています。収入・支出の状況だけでなく、市が整備してきた道路などの資産や借入金などの負債の状況、減価償却費などの状況も示しています。財務書類のうち、主に市の業務と関連のある下図の関係図を含めた「連結財務書類」についてご案内いたします。

用語解説

- ◆資産Ⅱ市が保有する建物や道路などの財産のこと
- ◆負債Ⅱ市が今後支払いを必要とするお金のこと
- ◆純資産Ⅱ資産から負債を除いた金額のこと
- ◆減価償却Ⅱ固定資産の経済的価値が時間の経過や使用によって減少していくことを「減価」といい、定められた耐用年数に応じ、費用を配分して計上する仕組みのこと

平成30年度決算 薩摩川内市の 連結財務書類

平成30年度末における連結後の資産総額は、土地や建物などの有形固定資産の減少などにより、前年度より33億円減の2469億円となっています。また、将来負担しなければならぬ額（負債）も地方債などの固定負債の減少により、18億円減の598億円となっています。さらに、福祉サービスやごみ収集などの資産を形成しない行政サービスの提供に費やした経費（経常経費）も、物件費などの業務費用や補助金などの移転費用の減少により、49億円減の843億円となっています。

①連結貸借対照表

借方 資産の部		貸方 負債の部	
固定資産	2,290.0億円	固定負債	524.9億円
有形固定資産	2,182.3億円	地方債等	407.4億円
事業用資産	1,206.7億円	長期未払金	11.7億円
インフラ資産	939.3億円	退職手当引当金など	105.8億円
物品	36.3億円	流動負債	72.8億円
無形固定資産	2.4億円	1年以内償還予定地方債等	55.3億円
投資その他の資産	105.3億円	賞与等引当金	6.7億円
基金	89.1億円	未払費用など	10.8億円
出資金など	16.2億円	負債合計	597.7億円
流動資産	178.9億円	純資産の部	
現金預金	59.8億円	固定資産等形成分	2,397.2億円
基金(財政調整基金など)	107.2億円	剰余分(不足分)	△526.0億円
未収金など	11.9億円	純資産合計	1,871.2億円
資産合計	2,468.9億円	負債・純資産合計	2,468.9億円

③連結資金収支計算書 (≒キャッシュフロー計算書)

期首資金残高	66.4億円
業務活動収支(収入-支出)①	46.0億円
支出(人件費、補助金など)	753.6億円
収入(市税、国県等補助金など)	799.6億円
投資活動収支(収入-支出)②	△35.7億円
支出(公共施設等整備費支出など)	91.3億円
収入(基金取崩など)	55.6億円
財務活動収支(収入-支出)③	△17.4億円
支出(地方債等償還など)	60.4億円
収入(地方債等発行収入など)	43.0億円
本年度資金収支額(①+②+③)	△7.1億円
本年度歳計外現金増減額など	0.5億円
期末資金残高	59.8億円

④連結純資産変動計算書

期首純資産残高(平成29年度末残高)	1,886.8億円
純行政コスト(△)	△800.8億円
財源(税金等、国県等補助金)	777.3億円
本年度差額	△23.5億円
無償所管替等	7.9億円
本年度純資産増減額など	△15.6億円
期末純資産残高(平成30年度末残高)	1,871.2億円

②連結行政コスト計算書(≒損益計算書)

経常行政コスト	
業務費用	317.7億円
人件費(職員給与費など)	108.7億円
物件費等(物件費、減価償却費など)	193.5億円
その他の業務費用(支払利息など)	15.5億円
移転費用	525.7億円
補助金等	245.5億円
社会保障給付	274.1億円
その他(補償金など)	6.1億円
経常費用(A)	843.4億円
経常収益	
使用料・手数料	24.5億円
その他(財産貸付収入など)	19.8億円
経常収益(B)	44.3億円
純経常行政コスト(A)-(B)	799.1億円
臨時損失(災害復旧事業費など)	3.0億円
臨時利益(資産売却益など)	1.3億円
純行政コスト	800.8億円

市民1人あたりでは?

連結貸借対照表

資産	260.5万円	負債	63.1万円
		純資産	197.4万円

連結行政コスト計算書

経常費用	89.0万円	経常収益	4.7万円
		純経常行政コスト	84.3万円

*平成31年3月31日現在人口：94,759人で算定

連結財務の内訳

薩摩川内市全体

一般会計等

- ・一般会計
- ・天辰第一地区土地区画整理事業特別会計
- ・天辰第二地区土地区画整理事業特別会計
- ・入来温泉場地区土地区画整理事業特別会計

公営事業会計

- ・水道事業などの公営企業会計
- ・一般会計等に含まれるものを除く特別会計(国民健康保険事業特別会計など)
- *公営企業会計の一部の会計は令和2年度決算から連結予定

一部事務組合

- ・鹿児島県市町村総合事務組合

広域連合

- ・鹿児島県後期高齢者医療広域連合

地方三公社

- ・薩摩川内市土地開発公社

第三セクター

- ・(公財)薩摩川内市民まちづくり公社
- *出資比率が50%以上の団体・法人

主な財務書類には以下の4つの表があります。

①貸借対照表



年度末において、市がどれほどの資産を保有しているか、また、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたかを表したものです。資産と負債・純資産の左右の釣り合い(バランス)がとれている表であるため「バランスシート」とも呼ばれています。

②行政コスト計算書(≒損益計算書)



一会計期間における行政活動のうち、資産形成につながらない人件費や社会保障などの行政サービスに係る経費(経常費用)と、その行政サービスの直接の対価として得られた施設使用料などの財源(経常収益)を対比させたものです。民間での損益計算書に当たります。

③資金収支計算書(≒キャッシュフロー計算書)



一会計期間における資金の流れを示していて、収支の性質に応じて、人件費や物件費など経常的な行政活動のための収支、学校や道路など、有形固定資産形成のための収支、地方債の償還などに係る収支の3つに区分し、どのような活動に資金が必要とされ、どのように賄われたかを表したものです。

④純資産変動計算書



貸借対照表の純資産の部に計上されているものが、一会計期間においてどのように変動したのかを示すものです。純資産とは、資産形成の財源として過去世代の負担や国・県の負担で将来返済する必要のないものをいいます。

問合せ先／本庁財政課財政G(内線4732)